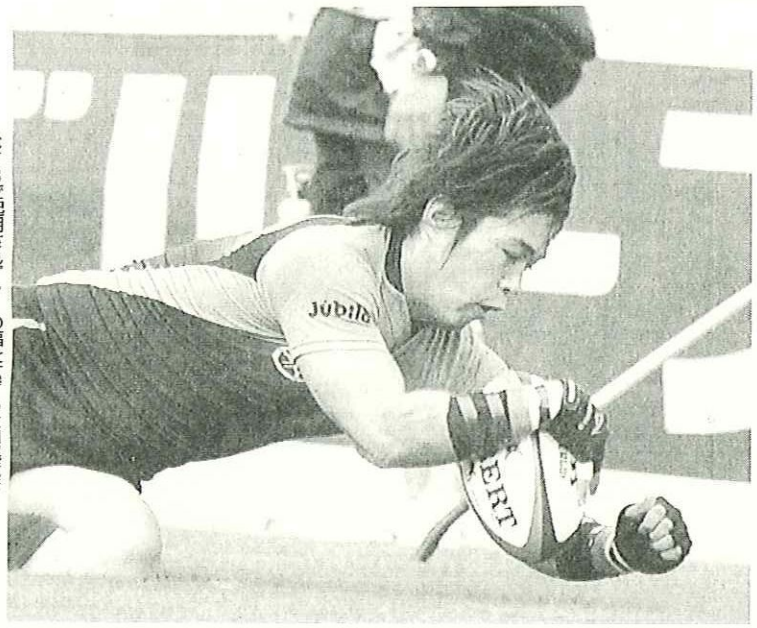
静岡特報　スポーツと健康

# 後半戦 攻めてVを

## トップリーグ・ヤマハ発

ラグビーのトップリーグは日本代表の活動で12月まで中断期間に入った。ヤマハ発動機（磐田市）は第7節までを終え、5勝1敗1分けの5位。今季からは4位以内がプレーオフに進出し、トーナメント方式で日本一を決めるため、後半戦の結果次第で優勝のチャンスは十分ある。上位3チームとの直接対決を制し、勢いを取り戻したヤマハ発の前半戦を振り返る。（中野吉洋）



CTBで起用されプレーの幅を広げる大田尾竜彦は通算24試合目となったワールド戦で初トライ

### 前半戦 上位くじき勢い

#### 意外な1敗1分け

「弱きを助け、強きをくじく」―。前半戦のヤマハ発は、この言葉がぴったり。

1敗を喫した相手は3戦目のコカ・コーラウエスト。1分けは4戦目の日本IBM。いずれも下位リーグからの昇格組で、意外な相手に苦戦した。

一方で、首位サントリーと2位東芝には、いずれも1点差で競り勝ち、相手の全勝をストップさせた。3位トヨタ自動車にも3点差で勝利。強豪に小差で勝つ見応えのある試合が続き、リーグ全体を活性化させている。

4位NECとは、まだ対戦していない。

#### 「敗戦を転換点に」

コーラ戦は単なる敗戦と言えない。

3戦目に勝てないジンクスを断ち切れなかったコーラ戦の翌日、全員で確認したポイントとすることをコーチ陣が延監督は「序盤戦は試合運びが硬かった」と振り返る。

#### ホーム連敗阻止期す

「敗戦をターニングポイントとすることをコーチ陣が延監督は「序盤戦は試合運びが硬かった」と振り返る。

#### 〝魔の時間帯〟解消

敗れたコーラ戦、引き分けたIBM戦で共通したのは、後半20分以降の流れの悪さ。〝魔の時間帯〟は、最年長ベテラン村田亙選手の復帰で解消した。同じスクラムハーフのポジションは3年目佐藤貴志選手が独り立ちし、自ら持ち込む突破力とFW並みの強い体で守備力も高い。

両者とも十分フル出場できるが、終盤の緊迫した場面で投入される村田選手には安定感がある。野球で言うところの抑えの投手ならぬ「抑えのハーフ」。5戦目のワールド戦では敵の足が止まったと見るや攻撃のテンポを速め、6戦目のトヨタ戦は自陣で反則があればPGで同点とされる危機を切り抜けた。

#### 守り中心から転換

ヤマハ発が目指すボールを動かし続けるラグビーは、7戦目の東芝戦でワンランク上の進化を遂げた。堅守がベースにあり「守りから入る」ことが定石だったチームが、自ら殻を破り「攻めへのこだわり」に転じた。

昨季は得意な攻撃パターンを持たず、相手防御を崩すのに苦労し、守り疲れた反省がある。今季は司令塔スタンドオフ（SO）と突破役センター（CTB）でゲームメークする。ワールド戦からは、両ポジションができる大西将太郎選手がSOに入り、従来SOだった大田尾竜彦選手がCTB の位置に起用され、〝ダブルSO〟をイメージした新しい形になった。

さらに、FW第3列が機動力を絡め、密集の近くでは攻撃ラインにも加わりボールを回す。食い止めようと相手防御が内側に集まれば大田尾選手がロングパスで外側に振り、一気にチャンスを広げる。相手がパスカットを狙って間合いを広げると、CTBの顔も持つ大西選手が突破を図る。密集のサイドを突くFWの走りもあり、3連覇を狙う東芝でさえマークしきれなかった。SO出身の堀川監督らしい攻撃的な戦術が浸透しつつある。

#### 1対1の強さ磨く

シーズン前から個々のフィジカルを強化してきたヤマハ発は、帰化選手を含めて4外国人が先発に名を連ねた東芝と渡り合った。鼻骨骨折を押して出場のフランカー本間俊治選手は172㌢と小柄ながら190㌢以上の相手にタックルを決め、突進を阻んだ。ウイング冨岡耕児選手らBK陣は大柄な相手FWをめがけて1対1の勝負を仕掛け、ミスマッチを突いてボールをキープした。

ヤマハ発は12月2日、ヤマハスタジアムで三洋電機を相手にリーグ後半戦を迎える。ホームでの連敗阻止という明確な目標を持つフィフティーンは、中断期間中も1対1の強さを磨き続ける。

鼻骨骨折でも気持ちが折れない本間俊治㊥は東芝の長身選手をタックルで仕留める＝いずれも花園ラグビー場で

リーグ前半戦順位（第7節終了時点）

| | チーム名 | 勝ち点 | 勝 | 分 | 負 | トライ数 | 得失点差 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | サントリー | 31 | 6 | 0 | 1 | 44 | 195 |
| 2 | 東芝 | 31 | 6 | 0 | 1 | 41 | 136 |
| 3 | トヨタ自動車 | 27 | 5 | 0 | 2 | 31 | 88 |
| 4 | NEC | 26 | 5 | 0 | 2 | 27 | 47 |
| 5 | ヤマハ発動機 | 24 | 5 | 1 | 1 | 21 | 25 |
| 6 | 神戸製鋼 | 23 | 5 | 0 | 2 | 28 | 13 |
| 7 | 三洋電機 | 22 | 4 | 0 | 3 | 31 | 93 |
| 8 | クボタ | 15 | 3 | 0 | 4 | 22 | −25 |
| 9 | サニックス | 15 | 3 | 0 | 4 | 21 | −48 |
| 10 | コカ・コーラW | 10 | 2 | 0 | 5 | 13 | −28 |
| 11 | リコー | 8 | 2 | 0 | 5 | 15 | −80 |
| 12 | 日本IBM | 8 | 1 | 1 | 5 | 19 | −108 |
| 13 | セコム | 6 | 1 | 0 | 6 | 17 | −144 |
| 14 | ワールド | 0 | 0 | 0 | 7 | 14 | −164 |

勝ち点は「勝ち」＝4、「分け」＝2、
「7点差以内の負け」＝1、
「勝敗に関係なく1試合4トライ以上」＝1。
同勝ち点の場合、得失点差で順位決定。

第8節以降の上位5チームの対戦相手

| チーム名 | 8節 | 9節 | 10節 | 11節 | 12節 | 13節 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| サントリー | コーラW | トヨタ | NEC | ワールド | 東芝 | サニックス |
| 東芝 | リコー | サニックス | 神戸製鋼 | トヨタ | サントリー | 三洋電機 |
| トヨタ自動車 | 日本IBM | サントリー | クボタ | 東芝 | ワールド | NEC |
| NEC | サニックス | ヤマハ発 | サントリー | 三洋電機 | 神戸製鋼 | トヨタ |
| ヤマハ発動機（試合日） | 三洋電機（12・2） | NEC（12・10） | リコー（12・16） | セコム（12・23） | サニックス（1・7） | 神戸製鋼（1・14） |